



NPO 金沢杜の里 NEWS

2023.7 No.44



ヤマボウシ(杜の里1丁目)

ふるさと「杜の里」



金沢市立杜の里小学校

教頭 藤谷 三栄子

今年度の4月にこの杜の里小学校に赴任しました。初めましてと言うべきところですが、私には懐かしくまるで故郷に戻ったかのような気持ちになっています。学生時代に校区内に暮らし、毎日この近辺を自転車で通っていたため、あちこちの景色から思い出が蘇ってくるからです。

今、改めてこの地域を見つめると、浅野川と美しい山々、緑豊かな自然、発展し続ける活気ある街並み、そして、「NPO金沢杜の里」の皆様を始め、地域の方々が整備してくださる沿道の四季彩豊かな花々から心が満たされる素敵な街だと実感しています。

また、地域の方や関係者の方、育友会の方などにお会いする機会を通して、子ども達の育成を第一に願い、学校を支援してくださることに感謝してやみません。本当にありがとうございます。

今年度は、アフターコロナとして、学校生活、地域の方との学習や活動を復活させ、更に充実させていきたいと考えております。子ども達にとって自分の地域の良さを知ることが、自分の土台を創る上で大変重要なことです。子ども達のために、地域の皆様には多方面でお力添えをいただきたいと願っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

令和5年度 通常総会

- 日時 令和5年6月11日(日) 9時30分
- 場所 金沢市立杜の里児童館
- 出席者 72名(うち委任者48名)
- 審議事項
 - 議案第1号 令和4年度事業報告及び収支決算に関する件
 - 議案第2号 令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)に関する件
 審議の結果、第1、2号が承認されました。



令和5年度事業の実施事項

1. 特定非営利活動事業

事業名	事業方針	施策項目
調査・研究事業	事業活動の推進を図る委員会の充実及び地区計画に基づき区域内の建築確認申請に際し、緑化保全の事前審査を行います。また、人材の確保と事業活動の活性化のため、地域を主体に会員の拡大を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の開催 地区計画申請の事前審査 会員の勧奨 祭りギフト券の交付
啓発と普及を図る事業	街づくり活動などの情報について、年3回「ニュース(広報誌)」を発行し、会員、地域住民等へ発信し、啓発と普及を図ります。また、ホームページで街づくり活動を団体等へ情報を発信し、当法人の情報公開の基盤の強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ニュース(広報誌)の発行 ホームページによる情報公開
地域間交流と交流連携推進事業	まちづくりの基盤となるコミュニティづくりを推進するため、地域住民等と協力した「まちおこしイベント」の活動等を支援し、人々の交流と健康で賑わいと活気あふれる街づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 若松三大まつりの支援 小学校等のイベント支援 自主防災組織の支援 樹木の名札設置
環境保全・花いっぱい運動事業	大学門前街の自然環境の維持と住民の緑化意識を高めるため、地域住民と協働で「花いっぱい運動」事業を展開し、地域の緑化推進に努めます。また、地域美化運動推進事業として、自然環境を将来にわたり「ふるさと」の景観を残すため、里山の整備保全を行う団体等を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい運動の推進 セットバックの整備の推進 ホテルの育成活動の事業 幹線道路清掃活動の推進 卯辰山グリーンデイの参加

2. その他の事業

事業名	事業方針	事業内容
まちづくり環境整備受託事業	住まいづくりを支援するため、私有地の除草作業等を受託します。	・有料受託事業
公共施設管理受託事業	緑地小公園の清掃・管理等を公共管理者から受託します。	

まちづくり活動

令和5年4月～令和5年6月

7月～10月行事予定

- ◎若松杜の里秋まつり支援
 - 9月中旬予定・若松八幡さん公園
 - 主催：若松杜の里秋祭り実行委員会
- ◎もりの里まつり支援
 - 10月上旬(予定)
 - 主催：杜の里商店会
- ◎環境保全・花いっぱい運動事業
 - ベンチ塗り替え
 - 7月22日(出)



緑地小公園管理;除草(毎月)



第1回花植え(4/22)



第2回花植え(6/10)



私有地草刈り(6/17)

街の声

「NEWS No.43号 (R5・4・1) 等のご意見・感想から」

- ☆いつも充実した杜の里NEWSを楽しんでいただいています。また、クロスワードパズルも楽しく頭をひねったり、家族に問いただながら、解答を添えていただけると有難いです。例えば今回の場合「陽気もよくなりました。さあみんなでかけましよう」みたいなのでいいです。
- ☆孫が杜の里小学校に通っています。先日、選挙の投票で杜の里小学校へ行ったら、道々にプランターのチューリップがきれいに咲いていました。美しい花を見ると心が和みます。お手入れ、ご苦労様です。
- ☆新年度が始まりました。もりの里の沿道脇のプランターにベコニアの花が植えられました。緑と花の溢れる町。NPO金沢杜の里の方々のお世話で、1日清々しい気持ちで頑張りたいものです。
- ☆「地域の民俗芸能シリーズ」楽しみにしています。もつともつと地域芸能を知りたいです。次回も楽しみにしています。また、「有毒植物に注意」で、これから山菜取りが始まりますが、分からない物は採らない、食べない等参考になります。
- ☆「道路沿いにパンジープランター200基設置」の3月26日付け新聞記事に目が止まりました。おかげ様で道路沿いはまごころのこもったパンジーやチューリップの花々が彩りを添えて、道行く人達をなごませてくれてます。いつもありがとうございます。
- ☆いつも「金沢杜の里NEWS」を送付いただきありがとうございます。春になり、美しい鉢を買ったのですが、すぐに枯れしまいました。沿道の美しい花たちは、皆様の、プランター設置のお陰ですね。200基の大きな単位の活動、ありがとうございます。
- ☆3月26日の新聞に「道路沿いにパンジープランター200基設置」の記事と共に色とりどりのお花の写真が掲載されました。2007年から続く取組みとのこと、今年で16年目となります。ひとえに会員の皆さまの協力と努力もりの里を愛する心があつてこそと思ひ、感謝しています。
- ☆昨年度のNPO活動を拝読し、花・緑化推進事業で400基のプランターに1200本という多くのベコニアの花が植えられていることをはじめて知りました。今年も通勤等で通るたびに心が癒されます。ありがとうございます。
- ☆いつも街をきれいにしていたいただきありがとうございます。用事や花見で折々行きます。できましたら、住居の表示板などをもつと数を増やして下されば助かります。
- ☆杜の里校下のプランターにチューリップが満開で、とてもとても春暖を感じられます。
- ☆まちおこしイベントの開催は、コロナも落ち着き、桜祭りは今年開催されましたが、秋祭り、杜の里祭りの開催を楽しみにしています。
- ☆杜の里小学校に勤務して早や2年、周囲の環境の美化にみんなで取り組んでおられる姿を目のあたりに見て、この努力があつてこそと感心しています。
- ☆表紙の浅野川湖畔の桜並木、本当に美しいです。ただ、咲く時季が早まって

わが町・探訪シリーズ22 「鈴見長門」と「蒙古襲来」

鈴見町発行の『鈴見の思い出』に、「もとは烽(スズミ)という字であった。」との記述があります。これは加賀志徹の『鈴見村 円珠庵雑記に、とぶひを、日本紀にもスズミともいへり。頭注に天智紀伝。筑紫国置二防人と烽(すずみ)。』を参考にしています。

「図説日本史」などに、『663年の白村江の戦いは、朝鮮の百済の救援要請に応じ、倭軍は出兵したが、唐・新羅軍に大敗し、中大兄皇子は報復に備え、対馬・壹岐・筑紫に烽火(とぶひ)・防人(さきもり)を置き、筑紫に水城を築いた。(日本書紀に長門城を築くとある)「烽」は外敵侵入を知らせる薪を焚く台で、20キロ間隔で常時4人を配置し、防人は東国の農民を当て、3年を1期として交替させる規定があつた。』とあります。子供のころ、『暗ならんうちに帰らにゃ、蒙古にさらわれっぞ!』とよく叱られました。弘安(1281年)の蒙古襲来は、長門にも300艘の蒙古軍が姿を現しています。「長門」といえば、若松本泉寺の滅亡後に成敗された有力者「鈴見長門」を思い起こします。当初は「鈴見与三左衛門」で、「鈴見長門」となり、最期は「下田長門」でした。下田が本姓と思われることから、私見ですが、「与三左衛門」の祖先は長門へ防人を引率した役人で、蒙古襲来情報の伝達者の称号が「鈴見長門」だったのではないだろうか。

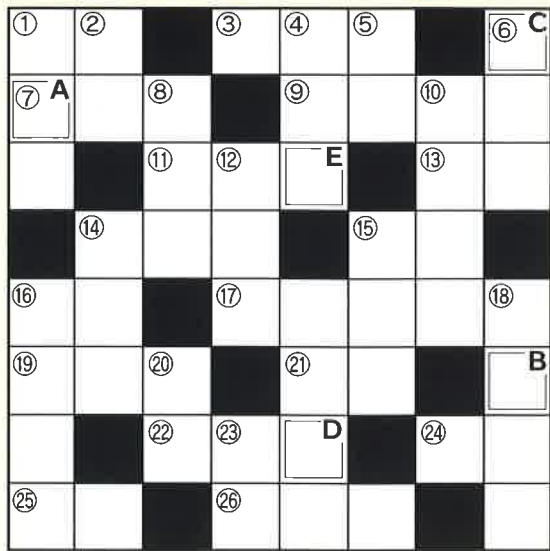
前回、「幕府奉公人町野康定」は下若松に居住したと記しましたが、「時宗清浄光寺過去帳」(神奈川県藤沢市)に、1384年の往生者と結縁(仏道に縁を結ぶ)者(1381~87年)の住所は宇多津(鈴見の北部)とあり、町野康定の祖父町野敏康の伯叔母も結縁(1417~29)者で、下若松ウタスが住所でした。角川地名大辞典に、『下若松は時宗の一つの中心地だった。』とあります。したがって、「本泉寺」の若松進出(1487年)より100年早く、鈴見の北部に寺(時宗道場)が建っていたこととなります。

町野氏は鎌倉時代からの評定衆家で、祖先は幕府中枢の人で「六波羅探題評定衆三善政康」でした。「律宗観尊」は幕府の要請を受け、蒙古降伏を祈願し、神風を起こしたとされる僧ですが、蒙古軍が退散し、勝利を観尊に知らせたのは、観尊の信者でもあつた三善政康でした。その観尊の弟子「忍性」は、藤沢の極楽寺を元寇の御願寺として祈祷し、後に鎌倉に移り、その跡地に創立したのが、「時宗総本山清浄光寺」でした。

引用・参考文献 蒙古襲来と神風 服部英雄・広辞苑
・角川地名大辞典 神奈川県・同 石川県・室町幕府の外様衆と奉公衆 図説日本史 東京書籍・石川県の日本歴史地名大系・他。

郷土歴史研究家 亀田輝之

クロスワードパズル



答	A	B	C	D	E
---	---	---	---	---	---

(ヒント)初夏から秋までの間、爽やかな紅、ピンク、白などの花を咲かせる花木

応募方法

◎郵便はがきに解答と住所、氏名、感想等を記入し、7月31日までに、次の所へお送りください。
〒920-1165 金沢市若松町3-281
NPO金沢杜の里情報公開委員会係

地域の民俗芸能④

◆ 田上りんりん ◆

田上町に伝説されている盆踊りの「田上りんりん」とは、江戸末期頃まで、全国的なお盆行事の最終日に、先祖の霊送りの踊りの道中儀礼として、鳴らした鈴(または、仏具の鈴)の擬音を、踊りの納めの曲種の称号としたものと言われています。また、身を引き締めて踊ることから『凛凛』とも言ったという説もあります。踊りの芸能としては、風流踊り系統のもので、流し踊りだったと思われていますが、田上町保存会が元氣だったころの盆踊りで、田上りんりんを踊ったという地域の人達の話では、田上はんたの踊りと似ていたとの話もあり、「新田上りんりん」として、音楽用の鈴を持って軽やかに流し踊る振り付けにしております。

りんりん節

リンリンリンリンリンリンリン
お前一人か連衆がないか
連衆あとからちよいと籠でくる
リンリンリン
下にあれども上中村よ
ままにならぬが浮世のならい
文句違えてこきがねなれど
こころあたりで踊りを絞める

会員の皆様のご協力とご支援により、令和5年度スタートしました。感謝します。

街の声には暖かい感想をいただき、改善すべきことは取り組み、引続き、緑豊かな自然環境の街づくりに努めます。(編集後記)

タテのカギ

- ① 今年の干支
- ② 音楽や歌等にあわせて身体を動かす芸
- ④ 何らかの関係があること
- ⑤ 生活に伴って発生する不用品
- ⑥ 土俵内で取り組む競技
- ⑧ もとの位置に戻ることに
- ⑩ 光の明るさを表す単位
- ⑫ 競技の得点記録表
- ⑭ 物の形を平面に描いたもの
- ⑮ 誘いに利用する〇〇〇捜査
- ⑯ 女子が身に着ける洋服
- ⑰ 写真帳
- ⑲ 神に仕える女
- ⑳ 1年の中で降水量の多い時期

ヨコのカギ

- ① 十二支の1つ
- ③ 安全に守り固めること
- ⑦ お金を入れるもの
- ⑨ 江戸時代の武士の礼装
- ⑪ 病気の時、飲むもの
- ⑬ 陰の反対語
- ⑭ 過ぎ去ったことを思い起すこと
- ⑮ 男の年寄り
- ⑯ 火曜日と木曜日の間
- ⑰ 屋外で行う活動
- ⑲ 姿を写して見るもの
- ⑳ 引っかけること
- ㉒ 兵庫県南部に位置する県庁所在地
- ㉒ 近くのところ
- ㉓ 尋ねること
- ㉔ 心待ちにすること

◎44号の正解者の中から抽選で15名様に粗品を8月上旬に発送します。
◎44号の解答は、令和5年11月発行の45号に掲載します。
◎43号の解答は「シュンダン」でした。

若松遺跡について

遺跡からわかること

2回目の今回は、河岸段丘の2・3段目に所在する若松遺跡です。田上地域の埋蔵文化財について、山側環状道路建設時の遺跡を含め、地域における8つの伊阿関「若松遺跡・田上北遺跡・田上西遺跡・田上東遺跡・田上西遺跡・田上南遺跡・榊原神社遺跡・田上本町遺跡・旧上野射撃場遺跡」の他、縄文時代の角間川遺跡・角間乾場遺跡、金沢大学角間遺跡がある。

若松遺跡は金沢市田上北イオン杜の里を中心にした周辺にある遺跡です。田上町の周辺は鈴見町、若松町、角間町、田上本町、旭町などともかつては丘陵部に拡大な水田が広がる農村域であった。遺跡の調査は区画整理事業に伴い発掘調査されたもので、調査の成果から古くより人々の営みがあったことが明らかになった。

遺跡の調査は、1988年と1999年にかけて合計10,700㎡を調査されたようで、調査では、縄文時代前期・後期の土器が出土し、続く弥生時代では後期の堅穴建物跡3棟、堀立柱建物6棟と弥生土器、漁網に用いる土鐘、狩猟用の石鏃、磨製石斧、たたらの際に生成される鉾滓などが出土した。古墳時代では家畜小屋が想定される円形に巡る周溝など合わせて9条確認した。平安時代後期から鎌倉時代にかけては堀立柱建物跡35棟、棚列や石列など、村を構成する要素を多数確認したほか、土師器や須恵器、越前焼や中国製陶磁器類など多彩な出土遺物がある。

注目すべきものでは、石でできた古代の重りである石製権と風字硯がある。石製権は重量24gを測り、摘みに相当する部分の紐を通すためとみられる小さな穴があげられている。風字硯は筆で字を書く際に用いる硯だが、黒色と朱色の2種類の墨を同時にためることができるよう硯中央に仕切りを設けたものである。金沢市内で唯一の出土事例である。この出土品は、かつて平安時代から鎌倉時代にかけて若松地区にはものの主さを測る概念を持ち合わせ、墨書と朱書を用いて文書を書く能力のある人物やそれらの用具を理解して使用する集団が存在したことの証といえるであろう。

これらの発掘後の遺跡は、今は建物等があり遺跡跡を伺うすることはできませんが、その昔、田畑もあり集団で生活を営んでいた人々がいたことを証しており、昔のロマンに思いを馳せることができます。

資料提供・関戸正彦

